内蔵ハードディスク

フォーマットについて

本書では、フォーマットについて記載しています。フォーマットするときは、別冊「ハードディスクユーザーズマニュアル&付属CDの使い方」とともに必ずお読みください。

本書の使いかた

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク .... ⚠注意 に続く説明文は、製品を取り扱う際に特に注意すべき事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与える恐れがあります。

次の動作マーク .... ↘次へ に続くページは、次にどこのページへ進めば良いかを記しています。

文中の用語表記

- 本書では、次のようなドライブ構成を想定して説明しています。
  A:フロッピーディスクドライブ
  C:ハードディスク
  E: CD-ROMドライブ
- 文中[ ]で囲んだ名称は、ダイアログボックスの名称や操作の際に選択するメニュー、ボタン、チェックボックスなどの名称を表しています。
- 本中< >で囲んだ名称は、キーボード上のキーを表しています。 （例）<Enter>キー
- Microsoft社Windows 98 Second Editionを「Windows98SE」と表記しています。
- Microsoft社Windows Millennium Editionを「WindowsMe」と表記しています。
- MS-DOSとPC DOSを合わせて「DOS」と表記しています。
- 本書に記載されているハードディスク容量は、1GB＝1000^3byteで計算しています。OSやアプリケーションでは1GB＝1024^3byteで計算されているため、表示される容量が異なります。

目 次

1 フォーマット（初期化） 3

フォーマット（初期化）

本製品を使用するために必要なフォーマットの方法を説明しています。

OSをインストールする場合には、【P21「第2章　OSのインストール」】を参照してOSをインストールしてください。

フォーマットするときの注意

- 本書に記載している実行例は、あくまでも参考のためのものです。ハードディスクをフォーマットするときは、必ず使用しているOSのマニュアルを参照してください。
- OSに搭載されているフォーマット機能の使いかたは、OSのマニュアルまたはヘルプで確認してください。
- Windows搭載パソコンで、起動用ハードディスクの内容を本製品にすべてコピーするときは、付属CDに収録されている「DriveImage」を使用します。
  この場合、事前に本製品をフォーマットする必要はありません。【別冊「ハードディスクユーザーズマニュアル&付属CDの使いかた」参照】
- WindowsMe/98SE/98/95搭載パソコンの場合は、問題が発生したときやパソコンの環境設定を行うために、OSの起動ディスクを作成してください。作成方法は、各OSのマニュアルやヘルプを参照してください。
- フォーマットすると、ハードディスク内にあるデータは失われます。フォーマットする前に、ハードディスクの使用環境をもう一度よく確認してください。
  フォーマットはお客様ご自身の責任で行うものです。
  誤って大切なデータやプログラムを削除しないように、フォーマットを実行するディスクが何台目のディスクか、また、ドライブ名は何か必ず確認しておいてください。
- フォーマット中は、絶対にパソコンの電源スイッチをOFFにしたり、リセットしないでください。
  ディスクが破損するなどの問題が発生します。また、以後の動作についても保証できません。ご注意ください。
- NEC製PC-98NXシリーズで「CyberTrio-NX」がインストールされたパソコンをご使用の場合は、「CyberTrio-NX」を「アドバンスモード」に変更してください。詳しくは、パソコン本体のマニュアルを参照してください。
- Windowsのバージョンによっては、フォーマットに関して制限があります。フォーマットする前に、「Windowsによる制限」【P7】を参照してください。
- フォーマットの手順は、使用するOSや作成するパーティションの種類によって異なります。

Windowsによる制限

OS	制限事項
Windows98SE/98	Windows98SE/98付属のパーティション作成ソフト「FDISK」は、64GBを越える容量のハードディスクに対応していません。 64GBを越えるハードディスクにOSをインストールしない場合は、本製品付属の「Disk Formatter」でハードディスクをフォーマットしてください。 OSをインストールする場合は、この問題を解消した「FDISK」を、マイクロソフト社のホームページ(http://suport.microsoft.com/)からダウンロードして、ハードディスクをフォーマットしてください。
Windows95	137GB以上の容量は使用できません。また、Windows95付属のパーティション作成ソフト「FDISK」は、64GBを越える容量のハードディスクに対応していません。 64GBを越えるハードディスクにOSをインストールしない場合は、本製品付属の「Disk Formatter」でハードディスクをフォーマットしてください。 OSをインストールする場合は、いったん既存のハードディスクにOSをインストールした後で、そのハードディスクの内容を本製品にコピーしてください。コピーには本製品付属の「DriveImage」を使用してください。【別冊「ハードディスクユーザーズマニュアル&付属CDの使いかた」参照】
WindowsXP/2000	パーティションのファイルシステムにFAT32を使用する場合、本製品付属の「DiskFormatter」でフォーマットしてください(P6)。OSの機能でフォーマットした場合、1パーティションあたりの最大サイズは32.7GBとなります。
WindowsMe	特に制限はありません。
WindowsNT4.0	OSのインストール時に起動ドライブの領域に割り当てられる容量は、最大4.3GBです。その他の領域はファイルシステムにNTFSを使用することで、4.3GBを超える容量でも使用できます。

※ 本書に記載されているハードディスク容量は、1GB＝1000^3byteで計算しています。OSやアプリケーションでは1GB＝10243byteで計算されているため、表示される容量が異なります

FAT16、FAT32、NTFSの特徴

FAT16、FAT32、NTFSには、それぞれ次のような長所と短所があります。

FAT16

長所
Windows95(4.00.950/4.00.950a)、WindowsNT、Windows3.1、DOSでも使用できる。

短所
- 1つの領域として確保できる容量は最大2047MBまで。
- 確保する容量が大きくなるとクラスタサイズも大きくなり、ディスクの使用が非効率的になる。

FAT32

長所
- クラスタサイズがFAT16よりも小さく、ディスクを効率的に使用できる。
- 1ファイルの容量は最大4GBまで。

短所
- Windows95(4.00.950/4.00.950a)、WindowsNT、Windows3.1、DOSなどでは使用できない。
- 確保する領域が512MB以下のときは、FAT16としてフォーマットされる(FAT32としてはフォーマットできません)。

NTFS

長所
- 1ファイルが4GB以上でも保存できる。

短所
- WindowsMe/98SE/98/95(4.00.950/4.00.950a)、WindowsNT、Windows3.1、DOSなどでは使用できない。

WindowsXP/2000をお使いの方へ

WindowsXP/2000をお使いの場合、2種類のフォーマット方法があります。用途に応じて以下のページを参照しフォーマットしてください。

- キャプチャを使っている
  キャプチャボードなどでテレビやビデオの映像を録画したデータを本製品に保存する場合。
- DVDを作ることがある
  本製品を取り付けたパソコンでＤＶＤ-Videoやデータディスク(DVD)を作成する場合。
- 容量が4GB以上のファイルを保存したい
  1ファイルが4GB以上の容量を持つファイルを本製品に保存したい場合。
- NTFS形式でフォーマットしたい
  本製品をNTFS形式でフォーマットしたい場合。

→

「DVD作成やキャプチャを行う(1ファイルの容量が4GBを超える可能性がある)場合【WindowsXP/2000のみ】」【P12】

1ファイルが4GBを超えるファイルを保存することができます。
本製品をNTFS形式でフォーマットします。

⚠注意 この手順でフォーマットした場合、WindowsMe/98SE/98/95、Macintoshなどからアクセスはできません。

- 簡単にフォーマットしたい
  簡単にフォーマットしたい場合。ただし、1ファイルの容量が4GB以上のファイルは保存できません。
- マルチブート環境などで他のOSからもアクセスしたい
  WindowsXP/2000の他に、WindowsMe/98SE/98/95/NT4.0などからアクセスしたい場合。
- FAT32またはFAT16形式でフォーマットしたい
  本製品をFAT32形式またはFAT16形式でフォーマットしたい場合。

→

「WindowsXP/2000/Me/98SE/98/95をお使いの場合」【P6】

簡単にフォーマットすることができます。また、マルチブート環境で使用に適しています。
本製品をFAT32形式またはFAT16形式でフォーマットします。

⚠注意 1ファイルが4GB以上のファイルを保存できません。

次のページへ続く

WindowsXP/2000/Me/98SE/98/95をお使いの場合

付属CDに収録されているフォーマッタを使用してフォーマットします。ここでは「Disk Formatter」を使用してFAT32形式またはFAT16形式でフォーマットする手順を説明します。

⚠注意　FAT32形式でフォーマットした場合、1ファイルの最大容量は4GB（FAT16形式の場合は2047MB）となります。WindowsXP/2000をお使いの場合には、【P12「DVD作成やキャプチャを行う（1ファイルの容量が4GBを超える可能性がある）場合【WindowsXP/2000のみ】」】の方法でフォーマットすれば1ファイルが4GB以上のファイルでも保存できます。

⚠注意　・Disk Formatterは、ハードディスクを拡張MS-DOS領域としてフォーマットします。Disk Formatterでフォーマットした領域からはOSを起動できません。

● できること
- パソコンに増設したハードディスクのパーティション作成やフォーマットが簡単に行えます。
  MO、スマートメディア、コンパクト・フラッシュカードなどのリムーバブルメディアもフォーマットできます。
- 論理フォーマットだけでなく、物理フォーマットも可能です。

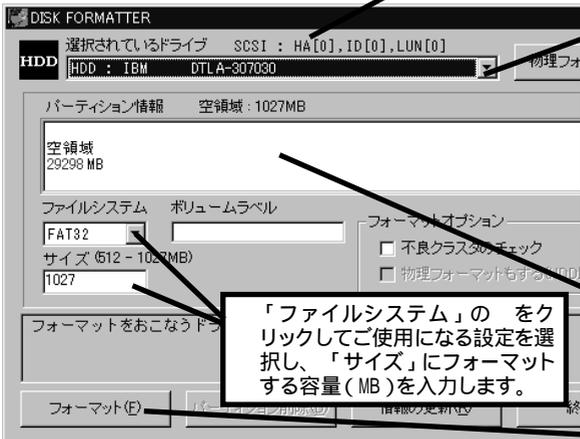
次の手順でDisk Formatterをインストールします。

1.パソコンのCD-ROMドライブに付属CDをセットする

2.簡単セットアップが起動したら、「Disk Formatterのインストール」を選択し、[開始]をクリックする

3.画面の指示に従ってインストールする

以上でインストールは完了です。

[スタート]－[プログラム]－[MELCO DISK FORMATTER]－[DISK FORMATTER]の順に選択すると、次の画面が表示されます。

⚠注意　・フォーマットするドライブを間違えないでください。
・フォーマットが終わったらパソコンを再起動する必要があります。再起動後、本製品が使用可能になります。
・③で「空領域」をクリックしないと④へ進むことができず、すべてのボタンがグレー表示のままとなります。ご注意ください。

WindowsNT4.0をお使いの場合

WindowsNT4.0でのフォーマット手順を説明します。

⚠注意 **フォーマットするときは、必ずWindowsNT4.0のマニュアルを参照してください。**

メモ 本製品にWindowsNT4.0をインストールする場合、インストールの途中で本製品がフォーマットされます。事前にフォーマットする必要はありません。WindowsNT4.0のマニュアルに従って、WindowsNT4.0をインストールしてください。

1 周辺機器→パソコンの順に電源スイッチをONにし、WindowsNT4.0を起動します。

2 [スタート]－[プログラム]－[管理ツール(共通)]－[ディスクアドミニストレータ]を選択します。

⚠注意 **表示されたドライブ構成を把握してから作業してください。誤って他のハードディスクをフォーマットしないように注意してください。**

本製品を新たに増設した場合

「システム構成を更新します。」と表示されます。[OK]をクリックします。

3 [ディスクアドミニストレータ]が起動します。本製品のドライブをクリックします。

4 パーティションを作成します。

WindowsNT4.0以外のOSにもパーティションを認識させたいときは、パーティションサイズを2047MB以下にしてください。

プライマリパーティションを作成する場合

本製品を起動用にするときは、必ずプライマリパーティションを作成してください。本製品を起動用にしないときは、拡張パーティションだけを作成してください。

⚠注意 **プライマリパーティションから優先してドライブ名が割り当てられるため、起動ドライブ以外のハードディスクにプライマリパーティションを作成すると、今まで使用していたハードディスクのドライブ名が変更されることがあります。**

1 [パーティション]－[作成]を選択します。

2 任意のパーティションサイズを入力して[OK]をクリックします。

次のページへ続く

拡張パーティションを作成する場合

本製品を起動用として1ドライブだけで使用する場合は、拡張パーティションを作成する必要はありません。

1 ［パーティション］－［拡張パーティションの作成］を選択します。

2 パーティションのサイズを確認し、［OK］をクリックします。

3 作成された空き領域を選択し、［パーティション］－［作成］を選択します。

4 任意のパーティションサイズを入力し、［OK］をクリックします。

5 メニューバーから［パーティション］－［今すぐ変更を反映］を選択します。

6 「ディスク構成を変更しました。変更結果を保存しますか?」と表示されたら、［はい］をクリックします。

7 「ディスクは正常に更新されました。」と表示されたら、［OK］をクリックします。

8 フォーマットするパーティションを選択した後、メニューバーから［ツール］－［フォーマット］を選択します。

9

・WindowsNT4.0だけで本製品を使用するときは、［NTFS］を選択してください。
・マルチブート環境などでWindowsNT4.0以外のOSにも認識させたいときは、［FAT］を選択してください。ただし、この場合は、手順4でパーティションサイズを2047MB以下にしておく必要があります。

10 「フォーマットが完了しました。」と表示されたら、［OK］をクリックします。

以上でWindowsNT4.0でのフォーマットは終了です。

正常にフォーマットされると、本製品がドライブとして認識され、作成した領域が［マイ　コンピュータ］に新しいドライブとして追加されます。

Mac OS 8.6～9.2

Mac OS 8.6～9.2で、ハードディスクをMac OS拡張フォーマットで初期化する手順の概略を説明します。

⚠注意 **フォーマット（初期化）するときは、必ずMac OSのマニュアルを参照してください。**

1 **<caps lock>キーが押し込まれていないことを確認します。**

2 **Macintosh付属の「ソフトウェアインストールCD」を使って、パソコンを起動します。**

3 **ソフトウェアインストールCDの中にある［ユーティリティ］フォルダを開きます。**

4 **［ドライブ設定］アイコンをダブルクリックします。**

5 **ドライブの一覧から、フォーマット（初期化）したいディスクを選択します。**

6 **［初期化...］をクリックします。**

7 **［カスタム設定...］をクリックします。**

8 **［パーティション］メニューを開き、パーティションの数を選択します。**

9 **［ボリューム情報］の［タイプ］メニューを開き、［Mac OS 拡張］を選択します。**

10 **ボリューム（パーティション）のサイズ（容量）を設定します。**

11 **［OK］をクリックします。**

12 **［初期化...］をクリックします。**

以上でフォーマットは完了です。

次のページへ続く

Mac OS X

ハードディスク全体のフォーマット

Mac OS XのDisk Utilityを使って、ハードディスクをフォーマットします。

⚠注意 フォーマット（初期化）するときは、必ずMac OSのマニュアルを参照してください。

1 **Mac OS XのCD-ROMを使ってパソコンを起動します。**

2 **アップルメニューの[Installer]-[Disk Utilityを開く]を選択します。**

3

①［Drive Setup］をクリックします。

②フォーマットするディスクをクリックします。

③フォーマットするディスクの情報を確認します。ディスクの情報は製品によって異なります。

4

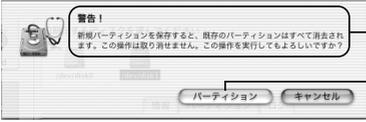
①［パーティション］をクリックします。

②パーティション方式（作成するパーティションの数）を設定します。

③パーティション情報を設定します。タイプは、通常[Mac OS 拡張]を選択してください。

④［パーティション］をクリックします。

※ 設定したパーティションは、すべて一括でフォーマットされます。また、設定方法については、Mac OSのヘルプも参照してください。

5

①メッセージを読みます。

②［パーティション］をクリックします。

以上でハードディスクのフォーマットは完了です。Disk Utilityは終了してください。

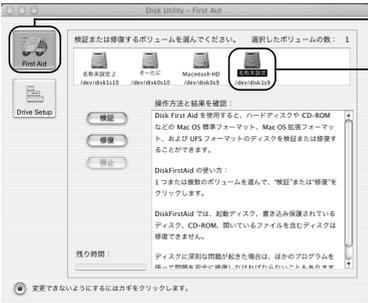
一部パーティションのパーティションタイプを変更する

一部のパーティションを現在のパーティションタイプから変更したいときは、次の手順でそのパーティションを再フォーマットしてください。

⚠注意 フォーマット（初期化）するときは、必ずMac OSのマニュアルを参照してください。

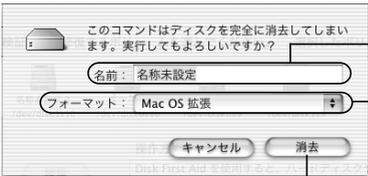
1 **Mac OS XのCD-ROMを使ってパソコンを起動します。**

2 **アップルメニューの[Installer]-[Disk Utilityを開く]を選択します。**

3

① [First Aid] をクリックします。

②再フォーマットするパーティションをクリックします。

4 **[オプション]メニューから[ディスクの消去]を選択します。**

5

①パーティションの名前を入力します。

②フォーマット（パーティションタイプ）を選択します。 通常は、[Mac OS 拡張]を選択してください。

③[消去]をクリックします。

以上でパーティションの再フォーマットは完了です。Disk Utilityは終了してください。

DVD作成やキャプチャを行う（1ファイルの容量が4GBを超える可能性がある）場合　【WindowsXP/2000のみ】

以下ではNTFS形式でフォーマットする手順を説明します。NTFS形式でフォーマットすると、1ファイルの容量が4GB以上のファイルでも保存することができます（FAT形式では、1ファイルの容量がに4GB以上の場合、保存できません）。

パーティションの種類

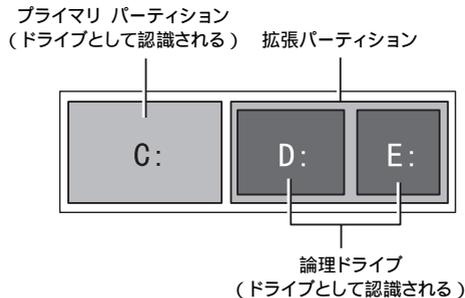
メモ　**本製品にWindowsXP/2000をインストールする場合**
インストールの途中で本製品がフォーマットされます。事前にフォーマットする必要はありません。
WindowsXP/2000のマニュアルに従って、インストールしてください。

メモ　**WindowsXP Professional（※）またはWindows2000でハードディスクをフォーマットする場合**
本書では、ハードディスクをベーシック ディスクとして使用する手順を説明します。ダイナミック ディスクとして使用する場合は、Windowsのヘルプを参照し、フォーマットしてください。また、ベーシック ディスクとダイナミック ディスクの違いに関しても、Windowsのヘルプを参照してください。
※ WindowsXP Home Editionは、ダイナミック ディスクをサポートしていません。

WindowsXP/2000のフォーマット機能を使って、ハードディスクをフォーマットします。ここでは、プライマリ パーティション（※）を作る手順を説明します。

※ パーティションとは、ハードディスク内に作る区画です。作成したパーティションは、1つのドライブとして認識されます。

パーティションの作成例）

プライマリ パーティション
（ドライブとして認識される）
拡張パーティション
C:
D:
E:
論理ドライブ
（ドライブとして認識される）

パーティションには、プライマリ パーティションと拡張パーティションの2種類があります。拡張パーティションは、その中に論理ドライブを作成する必要があります。どちらのパーティションを作成しても、基本的に違いはありませんので、通常はプライマリ パーティションを作成してください。
ただし、次のいずれかに該当する場合は注意してください。

- ハードディスク1台に5つ以上のパーティション（ドライブ）を作成する
  1台のハードディスクに作成できるプライマリ パーティションは、最大4つです。5つ以上のパーティションを作る場合は、拡張パーティションを作成し、その中に論理ドライブを作成してください。
- 別のOSをインストールし、マルチブート環境を作る
  OSをインストールするパーティションを、プライマリ パーティションにしてください。

注意
- **フォーマットするときは、必ずOSのヘルプを参照してください。**
- **マルチブート環境などで他のOSからアクセスする場合は、「WindowsXP/2000/Me/98SE/98/95をお使いの場合」（P6）の手順でフォーマットしてください。**
- **以下の説明では、WindowsXPの画面を使用しています。**

プライマリパーティションを作成する

1 **周辺機器→パソコンの順に電源スイッチをONにします。**

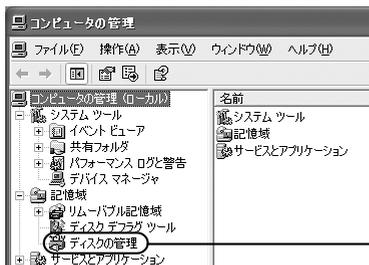
2 **WindowsXP/2000を起動し、コンピュータの管理者権限があるユーザー名（Administratorなど）でログオンします。**

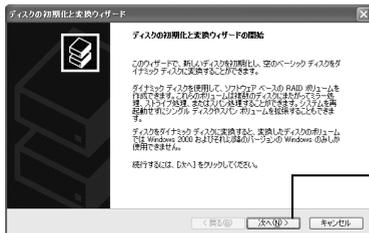
3 **［スタート］をクリックし、［マイ コンピュータ］をマウスの右ボタンでクリックします。**

Windows2000の場合

デスクトップの［マイ コンピュータ］を、マウスの右ボタンでクリックします。

4 **メニューが表示されたら［管理］をクリックします。**

5

［ディスクの管理］をクリックします。

6 **WindowsXPで初めて使用するハードディスクの場合は［ディスクの初期化と変換ウィザード］が表示されます（Windows2000で初めて使用するハードディスクの場合は［ディスクのアップグレードと署名ウィザード］が表示されます）。**

［次へ］をクリックします。

メモ **この画面が表示されない場合は、手順10へ進んでください。**

1
フォーマット(Windows)

次のページへ続く

7 初期化するディスクの選択をします（Windows2000の場合は、署名するディスクの選択をします）。

① ディスク（例：ディスク1）をクリックしてチェックマーク（✓）を付けます。

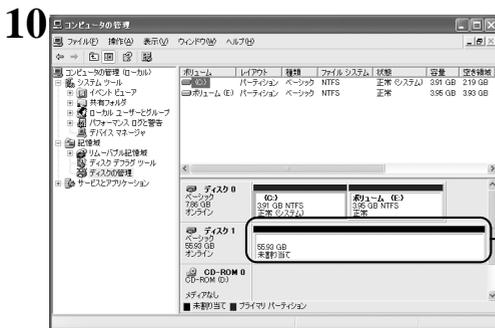
② ［次へ］をクリックします。

8 変換するディスクの選択をします（Windows2000の場合は、アップグレードするディスクの選択をします）。

① ディスク（例：ディスク1）をクリックしてチェックマーク（✓）を外します。

② ［次へ］をクリックします。

9 ［ディスクの初期化と変換ウィザードの完了］（Windows2000の場合は［ディスクのアップグレードと署名ウィザードの完了］）と表示されたら、［完了］をクリックします。

10

未割り当て領域が表示されます。

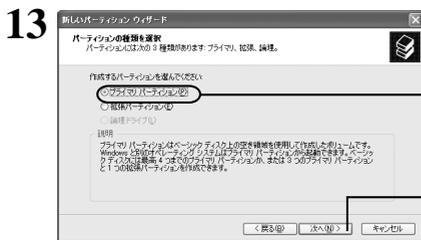
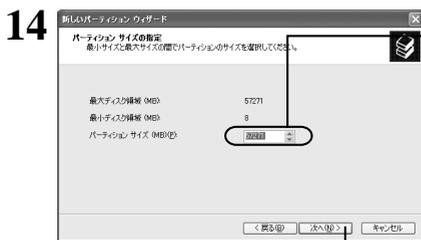
※「未割り当て」と表示されない場合は、本製品の領域を右クリックし、削除をクリックして領域を削除してください。

11

① 未割り当て領域を、マウスの右ボタンでクリックします。

② ［新しいパーティション］をクリックします（Windows2000の場合は［パーティションの作成］をクリックします）。

12 **［新しいパーティション ウィザードの開始］（Windows2000の場合は［パーティションの作成ウィザードの開始］）と表示されたら、［次へ］をクリックします。**

13

① ［プライマリ パーティション］をクリックして、チェックマーク（・）を付けます。

② ［次へ］をクリックします。

14

① ［パーティション サイズ］でサイズを指定します（Windows2000の場合は［使用するディスク領域］でサイズを指定します）。

※ サイズを変更する必要がない場合は、初期設定のまま最大値を指定します。

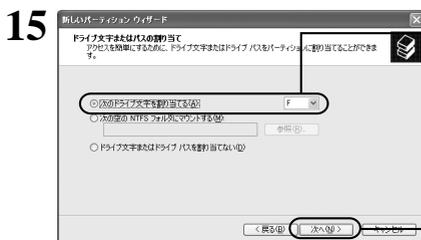
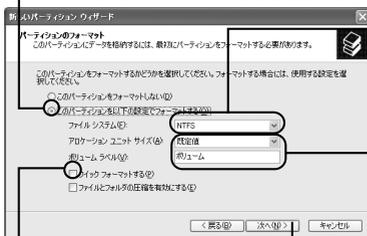
② ［次へ］をクリックします。

15

① ［次のドライブ文字を割り当てる］（Windows2000の場合は［ドライブ文字の割り当て］）をクリックし、ドライブ文字を指定します。

※ 特に設定を変更する必要がなければ、初期設定のままにしてください。

② ［次へ］をクリックします。

次のページへ続く

16 フォーマット形式などを設定します。

① ［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］をクリックして、チェックマーク（・）を付けます。

② ［ファイルシステム］に[NTFS]を選択します。

必要に応じて設定を変更します。
特に必要がなければ、［アロケーション ユニット サイズ］は初期設定のままにしてください。
［ボリューム ラベル］には、ドライブの名前をお好みで入力できます。

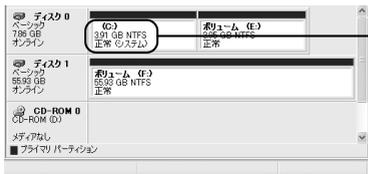
③ 各項目を設定したら、［次へ］をクリックします。

［クイックフォーマットする］にチェックマーク（✓）を付けると、フォーマット時間が短縮されます。

17 ［新しいパーティション ウィザードの完了］（Windows2000の場合は［パーティションの作成ウィザードの完了］）と表示されたら、［完了］をクリックします。

フォーマットが始まり、進行状態が%表示されます。

メモ
- クイックフォーマット実行時は、%表示はされません。
- フォーマットを中止する場合は、フォーマット中のパーティションをマウスの右ボタンでクリックし、［フォーマットの中止］をクリックします。

18

フォーマットが正常に終了すると、ボリュームラベルとパーティションに加えて、「正常」と表示されます。

「ボリュームは開かれているか、または使用中です。要求を完了できません。」というメッセージが表示された場合

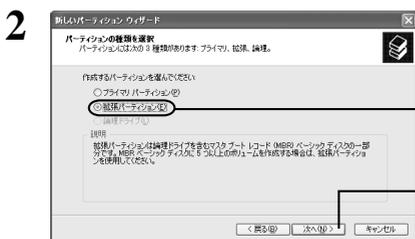
パーティションは作成されていますが、フォーマットは完了していません。[OK]をクリックし、作成したパーティションを次の手順でフォーマットしてください。

1. 作成したパーティションをマウスの右ボタンでクリックし、[フォーマット]を選択します。
2. 必要に応じてボリュームラベルやファイルシステムを設定し、[次へ]をクリックします。
   [クイック フォーマットする]にチェックマーク(✓)を付けると、フォーマット時間が短縮されます。
3. 以降は画面のメッセージに従って操作します。

以上で、プライマリ パーティションのフォーマットは完了です。

拡張パーティション/論理ドライブを作る場合

1 「プライマリパーティションを作る場合」【P13】の手順1~12の操作を行います。

2

① [拡張パーティション] をクリックして、チェックマーク(・)を付けます。

② [次へ] をクリックします。

3

① [パーティション サイズ] でサイズを指定します(Windows2000の場合は [使用するディスク領域] でサイズを指定します)。

※ サイズを変更する必要がない場合は、初期設定のまま最大値を指定します。

② [次へ] をクリックします。

4 [新しいパーティション ウィザードの完了](Windows2000の場合は[パーティションの作成ウィザードの完了])と表示されたら、[完了]をクリックします。

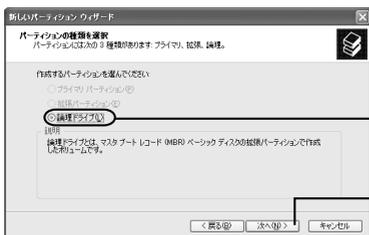
次のページへ続く

5

① 空き領域をマウスの右ボタンでクリックします。

② ［新しい論理ドライブ］（Windows2000の場合は［論理ドライブの作成］）をクリックします。

6 **［新しいパーティション　ウィザードの開始］（Windows2000の場合は［パーティションの作成ウィザードの開始］）と表示されたら、［次へ］をクリックします。**

7

① ［論理ドライブ］が選択されていることを確認します。

② ［次へ］をクリックします。

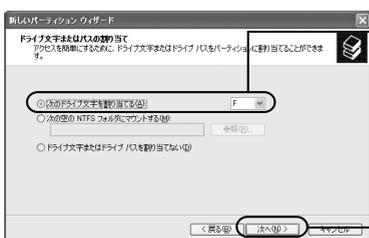
8

① ［パーティション　サイズ］でサイズを指定します（Windows2000の場合は［使用するディスク領域］でサイズを指定します）。

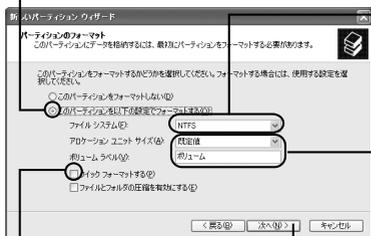
※ サイズを変更する必要がない場合は、初期設定のまま最大値を指定します。

② ［次へ］をクリックします。

9

① ［次のドライブ文字を割り当てる］（Windows2000の場合は［ドライブ文字の割り当て］）をクリックし、ドライブ文字を指定します。

※ 特に設定を変更する必要がなければ、初期設定のままにしてください。

② ［次へ］をクリックします。

10 フォーマット形式などを設定します。

① ［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］をクリックして、チェックマーク（・）を付けます。

② ［ファイルシステム］に［NTFS］を選択します。

必要に応じて設定を変更します。
特に必要がなければ、［アロケーション ユニット サイズ］は初期設定のままにしてください。
［ボリューム ラベル］には、ドライブの名前をお好みで入力できます。

② 各項目を設定したら、［次へ］をクリックします。

［クイックフォーマットする］にチェックマーク（✓）を付けると、フォーマット時間が短縮されます。

11 ［新しいパーティション ウィザードの完了］（Windows2000の場合は［パーティションの作成ウィザードの完了］）と表示されたら、［完了］をクリックします。

フォーマットが始まり、進行状態が%表示されます。

メモ
- クイックフォーマット実行時は、%表示はされません。
- フォーマットを中止する場合は、フォーマット中のパーティションをマウスの右ボタンでクリックし、［フォーマットの中止］をクリックします。

12

フォーマットが正常に終了すると、ボリュームラベルとパーティションに加えて、「正常」と表示されます。

1

フォーマット（Windows）

次のページへ続く

「ボリュームは開かれているか、または使用中です。要求を完了できません。」というメッセージが表示された場合

パーティションは作成されていますが、フォーマットは完了していません。[OK]をクリックし、作成したパーティションを次の手順でフォーマットしてください。

1. 作成したパーティションをマウスの右ボタンでクリックし、[フォーマット]を選択します。
2. 必要に応じてボリュームラベルやファイルシステムを設定し、[次へ]をクリックします。
   [クイック フォーマットする]にチェックマーク(✓)を付けると、フォーマット時間が短縮されます。
3. 以降は画面のメッセージに従って操作します。

以上で拡張パーティション/論理ドライブのフォーマットは完了です。

メモ 論理ドライブを複数作成する場合は、手順 8 でサイズを指定し、以下手順 12 までを作成する数だけ繰り返します。

OSのインストール

本製品にOSをインストールする手順の概要を説明します。

メモ
・詳しい手順はOSのマニュアル、またはパソコンのマニュアルを参照してください。
・本製品を起動ドライブにしない場合は、OSをインストールする必要はありません。フォーマットだけを行ってください。

パソコン付属のCD-ROMからインストールする

インストール手順はパソコンのマニュアルを参照してください。

注意 **137GB以上の製品をお使いの場合は、OSのインストール後に別冊「ハードディスクユーザーズマニュアル&付属CDの使いかた」を参照して、付属のユーティリティを実行してください。ユーティリティを実行しないと、データが破損、消滅する恐れがあります。**

メモ OSをインストールした後、ハードディスク内に未使用領域がある場合は、パーティションを作成し、フォーマットしてください。【P3「フォーマット」】

WindowsXP/2000/NT4.0のインストール

インストール手順はWindowsのマニュアルを参照してください。
インストール中にフォーマットが実行されるので、画面に表示されるメッセージに従って操作してください。

インストール手順

Windowsを新規にインストールする場合の一般的な手順は、次のとおりです。

ハードディスクをパソコンに取り付ける

▼

Windowsの起動ディスクから起動する

▼

Windowsをインストールする【各OSのマニュアルを参照】

▼

パソコンを再起動する

注意 **137GB以上の製品をお使いの場合は、OSのインストール後に別冊「ハードディスクユーザーズマニュアル&付属CDの使いかた」を参照して、付属のユーティリティを実行してください。ユーティリティを実行しないと、データが破損、消滅する恐れがあります。**

WindowsMe/98SE/98/95 のインストール

本製品にWindowsMe/98SE/98/95をインストールする手順は、パソコンの環境によって異なります。パソコン本体やWindowsのマニュアルに記載された手順に従ってインストールしてください。ここでは、Windows付属のFDISKを使って本製品に領域を作成してから、Windowsをインストールする手順を説明します。

⚠注意
- 事前に、パソコンおよびWindowsのマニュアルに記載されている、ハードディスクのフォーマットやWindowsのインストールに関する項目を必ず参照してください。
- ここでは起動ディスクからFDISKを実行し、領域を作成する手順を説明します。パソコンまたはWindowsに付属する起動ディスクを用意してください。起動ディスクがない場合は、パソコンまたはWindowsのマニュアルを参照し、作成してください。
- 本製品にWindowsMe/98SE/98/95をインストールする場合、付属の「Disk Formatter」は使用できません。

手順の概要

1 起動ディスクからパソコンを起動し、FDISKを起動する【P22】

▼

2 基本MS-DOS領域を任意の容量で作成する【P24】

▼

3 拡張MS-DOS領域を作成し、拡張MS-DOS領域内に論理MS-DOSドライブを作成する【P25】

▼

パソコンを再起動する

▼

WindowsMe/98SE/98/95をインストールする

1 FDISK の起動

1 **Windowsの起動ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。**

2 **周辺機器→パソコンの順に電源スイッチをONにします。**

MS-DOSプロンプトが起動します。

3 **FDISKと入力し、<Enter>キーを押します。**

4

```
512 MB以上のディスクがあります. このバージョンのWindowsでは, 大容量のディスク
のサポートが強化され, ディスク領域を有効に使えるようになりました. 2 GB以上の
ドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます.

重要 : 大容量ディスクのサポートを使用可能にして, このディスクに新しいドライブ
を作成した場合, ほかのオペレーティング システムを使ってこの新しいドライブに
アクセスすることはできません (Windows 95とWindows NTの特定のバージョン,
以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む). また, FAT32ファイルシステム
用に設計されていないディスクユーティリティは, 正常に動作しません.
このディスクでほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティ
にアクセスする必要がある場合, 大容量ドライブのサポートは使用しないでください.

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)...........? [ ]
```

- **1つの領域で確保する容量が2.1GB以上のときは、<Y>キーを押してから<Enter>キーを押します（ファイルシステムはFAT32になります）。**
- **1つの領域で確保する容量が2.1GB以下のとき、または、FAT32に非対応のアプリケーションを使用するときは、<N>キーを押してから<Enter>キーを押します（ファイルシステムはFAT16になります）。**

※ FAT32とFAT16の違いについては、P4「FAT16、FAT32、NTFSの特徴」を参照してください。

フォーマットするハードディスクの選択とハードディスク環境の確認

1

```
FDISK オプション

現在のハードディスク: 1

次のうちからどれか選んでください:

1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれか選んでください: [5]

FDISK を終了するには Esc キーを押してください.
```

5と入力し、<Enter>キーを押します。

⚠注意 本製品以外のハードディスクをパソコンに接続していない場合は、[5.現在のハードディスクドライブを変更]は表示されません。そのまま領域を作成してください。【P24「基本MS-DOS領域の作成」】

2

```
現在のハードディスクドライブを変更

ﾃﾞｨｽｸ  Drv   Mﾊﾞｲﾄ   空き   使用
1              6511            %
2              6511            %
3              6511            %

(1 Mバイト=1048576 バイト)
ハードディスクドライブの番号を入力してください (1-3).....[1]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください.
```

① 現在パソコンに接続されているハードディスクの状態を確認します。（*）

② 本製品のディスク番号を入力し、<Enter>キーを押します。
入力した番号のハードディスクが選択され、領域作成などの操作対象ハードディスク（現在のハードディスク）になります。

* [ﾃﾞｨｽｸ] ....ハードディスクに割り当てられた番号
[Drv] ....ドライブ名（C:など。未フォーマットの場合は何も表示されません）
[Mﾊﾞｲﾄ] .... 領域の容量
[空き] ....ドライブの空き容量（未フォーマットの場合は何も表示されません）
[使用] ....ドライブの使用率（未フォーマットの場合は何も表示されません）

⚠注意 本製品以外のハードディスクも接続している場合は、誤って他のハードディスクを選択しないように注意してください。

次のページへ続く

2 基本MS-DOS領域の作成

本製品を起動用にするときは、必ず基本MS-DOS領域を1つ作成してください。

本製品を起動用にしないときは、付属ユーティリティ「Disk Formatter」でフォーマットしてください。基本MS-DOS領域を作成する必要はありません。**【P6「WindowsXP/2000/Me/98SE/98/95をお使いの場合」】**

⚠注意 **基本MS-DOS領域から優先してドライブ名が割り当てられるため、起動ドライブ以外のハードディスクに基本MS-DOS領域を作成すると、今まで使用していたハードディスクのドライブ名が変更されることがあります。**

1

1を入力し、 <Enter>キーを押します。

2

1を入力し、 <Enter>キーを押します。

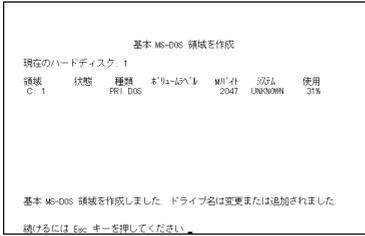
3

Nを入力し、 <Enter>キーを押します。
最大サイズを割り当てるときは、Yを入力して手順5へ進んでください。

4

作成したい基本MS-DOS領域のサイズをMBまたは%で入力し、 <Enter>キーを押します。
基本MS-DOS領域が作成されます。

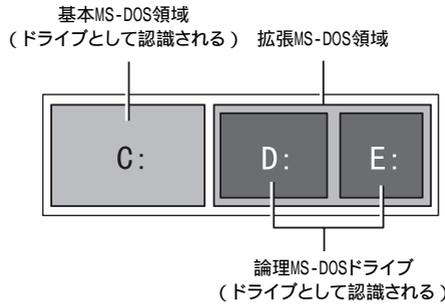
5

```
基本 MS-DOS 領域を作成

現在のハードディスク: 1

領域     状態     種類     ボリュームラベル   Mバイト   システム   使用
 C: 1            PRI DOS                     2047    UNKNOWN    31%

基本 MS-DOS 領域を作成しました. ドライブ名は変更または追加されました.

続けるには Esc キーを押してください._
```

<Esc>キーを押します。

3 拡張 MS-DOS 領域の作成

基本MS-DOS領域を作成した後に空き領域が残っている場合は、残りの領域すべてを拡張MS-DOS領域として確保します。拡張MS-DOS領域作成後、論理MS-DOSドライブを拡張MS-DOS領域内に作成します。

ドライブ全体を基本MS-DOS領域として確保した場合は、拡張MS-DOS領域を作成する必要はありません。

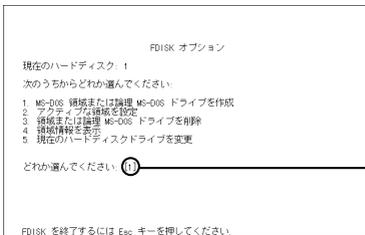
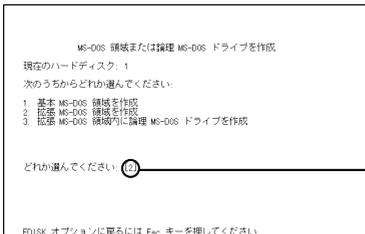
領域の作成例）

メモ 作成した論理MS-DOSドライブが、Windows上で確認できるドライブになります。

1

```
FDISK オプション

現在のハードディスク: 1

次のうちからどれか選んでください:

1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれか選んでください: [1]

FDISK を終了するには Esc キーを押してください.
```

1を入力し、 <Enter>キーを押します。

2

```
MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成

現在のハードディスク: 1

次のうちからどれか選んでください:

1. 基本 MS-DOS 領域を作成
2. 拡張 MS-DOS 領域を作成
3. 拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

どれか選んでください: [2]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください.
```

2を入力し、 <Enter>キーを押します。

次のページへ続く

3

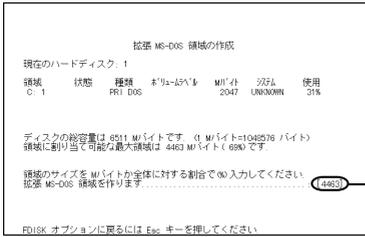
拡張 MS-DOS 領域の作成

現在のハードディスク: 1

領域	状態	種類	ボリュームラベル	Mバイト	システム	使用
C: 1		PRI DOS		2047	UNKNOWN	31%

ディスクの総容量は 6511 Mバイトです. (1 Mバイト=1048576 バイト)
領域に割り当て可能な最大領域は 4463 Mバイト (69%) です.

領域のサイズを Mバイトか全体に対する割合で(%)入力してください.
拡張 MS-DOS 領域を作ります.................................... [4463]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください.

**作成したい拡張MS-DOS領域のサイズをMBまたは%で入力し、 <Enter>キーを押します。
拡張MS-DOS領域が作成されます。**

4

拡張 MS-DOS 領域の作成

現在のハードディスク: 1

領域	状態	種類	ボリュームラベル	Mバイト	システム	使用
C: 1	A	PRI DOS		2047	UNKNOWN	31%
2		EXT DOS		4463	UNKNOWN	69%

拡張 MS-DOS 領域を作成しました.

続けるには Esc キーを押してください.

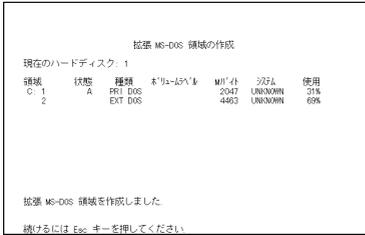
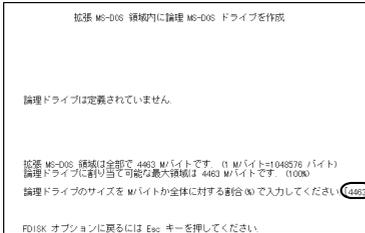
<Esc>キーを押します。

5

拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

論理ドライブは定義されていません.

拡張 MS-DOS 領域は全部で 4463 Mバイトです. (1 Mバイト=1048576 バイト)
論理ドライブに割り当て可能な最大領域は 4463 Mバイトです. (100%)
論理ドライブのサイズを Mバイトか全体に対する割合(%)で入力してください [4463]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください.

**作成したい論理MS-DOSドライブのサイズをMBまたは%で入力し、 <Enter>キーを押します。
論理MS-DOS領域が作成されます。**

6 作成する領域の数だけ手順 5 を繰り返します。

7 すべての領域を作成したら、<Esc>キーを押します。

領域の削除

**領域を作成し直すときは、既存の領域を削除します。
ここでは、拡張MS-DOS領域を削除する手順を説明します。**

1 [4.領域情報を表示]を選択します。選択しているドライブの領域情報が表示されるので、削除しても構わない領域であることを確認します。確認したら、<Esc>キーを押します。

2 [3.領域または論理MS-DOSドライブを削除]を選択します。

基本MS-DOS領域を削除するときは[1.基本MS-DOS領域を削除]を選択し、表示されるメッセージに従って操作してください。

3

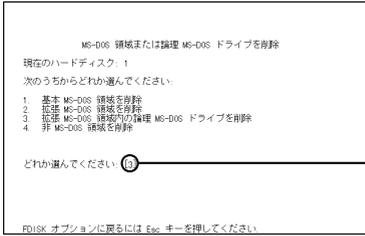
MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除

現在のハードディスク: 1

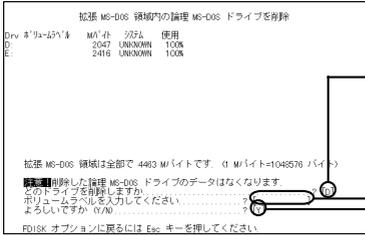
次のうちからどれか選んでください:

1. 基本 MS-DOS 領域を削除
2. 拡張 MS-DOS 領域を削除
3. 拡張 MS-DOS 領域内の論理 MS-DOS ドライブを削除
4. 非 MS-DOS 領域を削除

どれか選んでください: [3]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください.

3を入力し、 <Enter>キーを押します。

「削除する論理ドライブはありません」と表示されたときは、手順7以降の操作を行って、拡張MS-DOS領域を削除してください。

4

① ドライブ名を入力し、 <Enter>キーを押します。

② ボリュームラベルがつけられているときは、 ボリュームラベルを入力します。

③ Yを入力し、 <Enter>キーを押します。

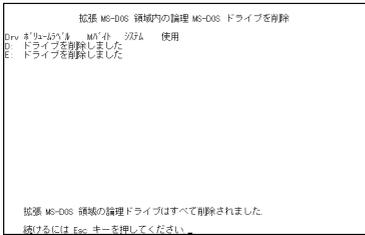
ドライブが削除されます。
複数の論理MS-DOSドライブがあるときは、すべての論理ドライブに対してこの操作を行います。

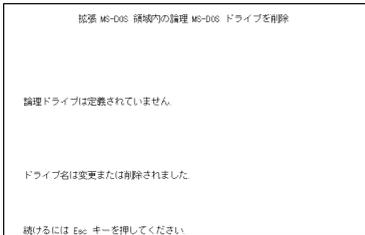
5

拡張 MS-DOS 領域内の論理 MS-DOS ドライブを削除

Drv ボリュームラベル Mバイト システム 使用
D: ドライブを削除しました
E: ドライブを削除しました

拡張 MS-DOS 領域の論理ドライブはすべて削除されました.

続けるには Esc キーを押してください.

<Esc>キーを押します。

6

<Esc>キーを押します。

7 [3.領域または論理MS-DOSドライブを削除]を選択します。

8 [2.拡張MS-DOS領域を削除]を選択します。

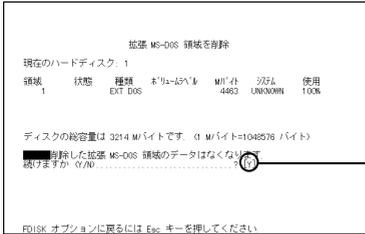
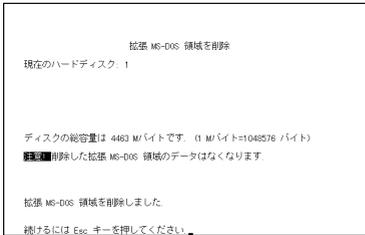
次のページへ続く

9

```
拡張 MS-DOS 領域を削除

現在のハードディスク: 1

領域    状態    種類    ボリュームラベル    Mバイト    システム    使用
  1            EXT DOS                      4463    UNKNOWN    100%

ディスクの総容量は 3214 Mバイトです. (1 Mバイト=1048576 バイト)

削除した拡張 MS-DOS 領域のデータはなくなります.
続けますか (Y/N)..............................? [Y]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください.
```

Yを入力し、 <Enter>キーを押します。

10

```
拡張 MS-DOS 領域を削除

現在のハードディスク: 1

ディスクの総容量は 4463 Mバイトです. (1 Mバイト=1048576 バイト)

注意! 削除した拡張 MS-DOS 領域のデータはなくなります.

拡張 MS-DOS 領域を削除しました.

続けるには Esc キーを押してください._
```

<Esc>キーを押します。

領域の作成が終わったら

FDISKを終了し、Windowsをインストールします。

メモ Windowsをインストールした後に、付属ユーティリティ「Disk Formatter」を使って領域を作成することもできます。【別冊「Disk Formatterソフトウェアマニュアル」参照】

1 **すべての領域を作成できたら、<Esc>キーを押します。**

FDISK画面に戻ります。

2 **再度<Esc>キーを押します。**

FDISKが終了します。

3 **パソコンを再起動し、Windowsをインストールします。**

4 **Windowsのマニュアルを参照してWindowsをインストールします。**

Mac OS のインストール

メモ **インストール手順は、パソコンまたはMac OSのマニュアルを参照してください。**

インストールの前に

● **インストールする前に、ハードディスクをフォーマット(初期化)する必要があります。**【P3「第1章 フォーマット(初期化)」】

インストール手順

Mac OSを新規にインストールする場合の一般的な手順は、次のとおりです。

ハードディスクをパソコンに取り付ける

▼

Mac OSのCD-ROMから起動する

▼

ハードディスクをフォーマット(初期化)する
【P3「第1章 フォーマット(初期化)」】

▼

Mac OSをインストールする
【パソコンまたはMac OSのマニュアルを参照】

▼

パソコンを再起動する

次のページへ続く

3 付録

バックアップ

バックアップの必要性

ハードディスクに蓄えられた重要なデータを保護するために外部のメディアにデータの複製を作成することを、「バックアップ」といいます。大容量ハードディスクには、日々大量のデータが記録されます。事故や人為的なミスなど不測の事態でデータを失うことは、業務上大きな損失となります。

⚠注意 ハードディスクを使用する場合は、日常的にバックアップを作成してください。

バックアップ用のメディア

バックアップ用のメディアには次のようなものがあります。

- ・フロッピーディスク
- ・光磁気ディスク（MO）
- ・CD-R/RW
- ・DVD-R/RW
- ・増設ハードディスク
- ・ネットワーク（LAN）サーバ
- ・DVD-RAM
- ・DVD+R/RW

大容量ハードディスクのバックアップ先としてフロッピーディスクを選んだ場合、大量のフロッピーディスクが必要になります。また時間もかかるため、効率的な手段とはいえません。可能な限りMOなど容量の大きいメディアにバックアップすることをおすすめします。

増設ハードディスクにバックアップする場合は、そのハードディスクをバックアップ専用にすることをおすすめします。

メモ Windows98/95付属のバックアップツールで、MOにデータをバックアップする場合、バックアップするファイル容量の合計がMOディスクの空き容量を超えないようにしてください（Windows98/95付属のバックアップツールの仕様です）。バックアップするときは必要なファイルだけを選択し、MOディスクの空き容量に納まるようにしてください。

バックアップデータの復元（リストア）

バックアップデータを元のハードディスクに復元することをリストアといいます。

リストアコマンド／ツールは、一般的にバックアップコマンド／ツールで指定されたもの以外は使用できません。マニュアルなどで確認して使用してください。

メンテナンス

Windows付属のツールを使用したハードディスクのメンテナンスについて説明します。

ハードディスクのエラーチェック（スキャンディスク）

Windowsには、ハードディスクのエラー（異常）をチェックするためのツールが付属しています。このツールはエラーを修復することもできます。ハードディスクを安全に使用するために、ハードディスクを定期的にチェックすることをおすすめします。

メモ
- エラーのチェック方法は、Windowsのヘルプやマニュアルを参照してください。
- Macintoshには、ハードディスクのエラーをチェックするためのツールは付属していません。ディスクのチェックには、市販のユーティリティを使用してください。

ハードディスクの最適化（デフラグ）

ハードディスクを長期間使用してファイルの書き込みや削除を繰り返していると、ファイルが分断されてディスクのあちらこちらに散らばってしまいます。これを断片化（フラグメンテーション）といいます。断片化されたファイルは、読み書きする際にディスクのあちらこちらにアクセスしなくてはいけないため、時間がかかってしまいます。

このように散らばってしまったファイルをきれいに並べ直すことを、最適化（デフラグメンテーション）といいます。ハードディスクを最適化すると、ディスクアクセスの速度が改善されます。

Windowsには、断片化したハードディスクを最適化するためのツールが付属しています。ハードディスクを快適に使用するために、定期的にハードディスクを最適化することをおすすめします。

メモ
- 最適化の方法は、Windowsのヘルプやマニュアルを参照してください。
- Macintoshには、ハードディスクを最適化するためのツールは付属していません。ディスクの最適化には、市販のユーティリティを使用してください。

仕様

メモ **最新の製品情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ(http://www.melcoinc.co.jp/)を参照してください。**

型番	HD-HFBシリーズ	HD-FBシリーズ
ディスク回転数	7,200rpm	5,400rpm
セクタサイズ	512bytes	
電源仕様	5V±5%、12V±10%	
平均シークタイム	10.9msec以下	13.8msec以下
平均消費電力	17W以下	
温度範囲	5～35℃	
湿度範囲	20～80%（結露無きこと）	
外形寸法	101.6(W)×26.1(H)×147.0(D)mm（ユニットサイズ）	
インターフェース仕様(※2)	Enhanced IDE Ultra ATA/100対応	
対応機種 （※3、※4）	次のデスクトップパソコン ・DOS/V機（OADG仕様） ・NEC PC98-NXシリーズ ・Apple Power Mac G4シリーズ（※5） ・Apple Power Macintosh G3 （M7553J/A、M7554J/A、M7555J/A、M7556J/A）	
対応OS（※6）	WindowsXP(※7)、WindowsMe(Millennium Edition) Windows98SE(Second Edition)、Windows98 Windows95 OSR2以降（4.00.950 B/4.00.950 C）（※8） Windows2000(※9)、WindowsNT4.0（ServicePack4以降） Mac OS 8.6～9.2、Mac OS X	

注意 **ハードディスクの動作時、特に起動時やアクセス時などに音がすることがありますが、問題ありません。**

※1 パッケージなどに表記の容量は、1GB=1000³bytesで計算しています。OSやアプリケーションでは1GB=1024³bytesで計算されているため、表示される容量が異なります。

※2 Ultra ATA/66以上の環境で使用する場合は、別途Ultra ATA/66以上に対応したケーブル（弊社製DKV-AT100など）が必要です。

※3 DOS/V機の場合は、パソコン本体が本製品の容量に対応している必要があります。パソコンがどこまでの容量に対応しているかは、パソコン本体メーカーにお問い合わせください。

※4 8.4GB以上または32GB以上または137GB以上のハードディスクに対応していないDOS/V機およびPC-98NXシリーズの場合は、弊社製IFC-AT133シリーズと併用することで、本製品を使用できます。

※5 Apple Power Mac G4シリーズをお使いの場合、137GB以上の製品はM8787J/A、M8689J/A、M8573J/A、M8839J/A、M8840J/A、M8841J以降の対応となります。

※6 パソコンが対応していないOSでは使用できません。

※7 WindowsXPをお使いの場合、137GB以上の製品を使用するためにはService Pack 1以上をインストールしている必要があります。

※8 Windows95をお使いの場合、137GB以上の製品は使用できません。

※9 Windows2000をお使いの場合、137GB以上の製品を使用するためにはService Pack 3以上をインストールする必要があります。